

福みえ社

伝える
つながる
ひびきあう

3
2021 March
No.359



一般財団法人三重県老人クラブ連合会さまより、ねんりんピック美術展への出展作品のお写真を提供いただきました！

もくじ

- 特集：コロナの時代を乗り越えるために…………… 2
- 連載：新ウェルビーイングみえプラン…………… 6
- information…………… 7
- ありがとうメッセージ…………… 8



特集

コロナの時代を乗り越えるために

新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を奮い、わが国においても2度目の緊急事態宣言が発出されるなど感染者の増加に歯止めがかかっていない状況が続いています。

われわれの日常においては、一人ひとりの感染症対策の徹底（いわゆる「新しい生活様式」）が求められています。社会福祉施設においても「エッセンシャルワーカー」として利用者及び家族の社会生活維持のため事業運営の継続を余儀なくされるなか、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を前提とした様々な制限や変化を求められた1年となりました。

本特集では、WEB対談形式で各分野の社会福祉施設のみならずさまざまな事業運営の1年間の振り返りや今後に向けた取り組みについての「生の声」をお届けします！

取材日 令和3年1月20日（水）



鈴鹿グリーンホーム 施設長
服部 昭博 氏



障がい者福祉サービス事業所
ありんこ 施設長
永井 一将 氏



まちなかフジ保育園 園長
藤谷 俊文 氏



— 新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、事業運営において生じた変化や対策、困ったことについて教えてください。 （以下敬称略）

服部 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、当法人ではオンラインを活用する機会が増えました。昨年4月からZoomでの家族面会を導入し、8月頃から月の利用数が2桁に、さらに年末には1日に複数件実施されるまでに増えました。

また、会議や研修についてもオンラインを導入したことで、会場までの往復や宿泊等、時間の節約につながり、職員の参加回数や、業務に取り組める時間が増えるようになりました。一方で、衛生消耗品は品薄の状態となり価格が高騰し、調達に苦労しました。

永井 利用者の中にはマスクを正しく着用できない方や、外してしまう方がおり、生活介護利用者の約半数以上がマスクの機能を果たさない使い方になってしまいました。マスクそのものの役割について理解していただくことが難しく、本人に説明し

てどうにかなる問題ではありませ
ん。顔に何かついていること自体を
不快に感じてしまう方や、マスクか
ら鼻が出ている方など、指摘しても
その時だけということが日常的にあ
り、邪魔だと破いてしまう方もい
らっしゃいました。利用者個人の対
策が難しかったため、施設としては、
空間そのものの感染リスクを下げる
ことを考え、部屋の換気を行い、行
政からの補助金を活用し空気清浄機
を各部屋に導入しました。また、こ
れまで同じ空間で一斉に食事をとっ
ていましたが、時間や場所を分ける
ことで密を避けるよう調整しまし
た。細かな消毒など利用者の周りの
環境を整えることでリスクを下げる
よう努めています。

藤谷 当園は乳児の子どもたちが多
く、密になる事が当たり前の環境にあ
ります。対策としては、各部屋に空気
清浄機を設置し換気の励行や、毎朝
熱を測るなどを行っています。新型
コロナウイルス感染症が広がる前か
ら手洗いなどを習慣づけていたため、
園児に一から教える必要はありません
でした。困ったことは、保護者や
保護者の勤務先で感染が発生した際、
すぐに把握や対応ができず、報告を待
つことしかできない現状です。また、
常に開園する必要があるため休むこ
ともできず、各園において保育の対応
が求められることとなります。

—その他、苦勞されたことや困つ
たことなどはありますか。

永井 新型コロナウイルスに関す
る報道を聞いただけで、精神的に
不安定になり施設の利用を控える
利用者がいる一方で、国が経済を
回すために実施したGOTOキャ
ンペーンを利用される方もいらっ
しゃいました。施設内で感染者を
発生させないため、国内で感染症
が発生した当初から緊張感をもつ
て運営してきましたが、ストレス
解消や経済を動かすことも必要な
ことだと思えます。しかし、移動
される分だけ感染リスクが増えて
しまうので、そのあたりのジレン
マや、各自の感染症に対する意識
に温度差があると感じます。施設
として、どこに軸を置くかとい
うことが難しく苦勞しました。

藤谷 現在困っていることは、実習
生の受け入れの対応についてです。
コロナ禍のなか、保育園によっては
受け入れないことがあるため、どこ
かにしわ寄せが行ってしまいます。
当然、実習生の受け入れには感染拡
大のリスクがあるため気持ちはわか
りますが、不足している保育士の人
材確保や養成も急務であるため、こ
ういった状況のなかであっても感染
症対策を徹底し受け入れていただき
たいと思います。

—職員からはどのような声が挙
がっていますか。

藤谷 幼稚園や小学校が休園・休校
となっているのに、保育園は開園せ
ざるを得ないことにストレスを感じ
ている職員もいましたが、知事から
「ありがとう」という言葉を送って
いただき、少し和らぎました。やはり、
ピリピリした空気があるため職員の
精神的なケアは必要だと思います。



永井 リスクに関する危機感はある
ります。通所施設なので、ご家族の
状況などを連絡していただくように
はしていますが、義務ではないです
し、すべてを把握することはできま
せん。利用者より「家族が県外から
帰ってきて、一緒に食事した」とい
った話を聞くと、やはり不安に感じ
るの声を挙がっています。利用者の
ご家族に感染症対策の強制ができな
いなか、常に状況を把握することが
好ましいと考えますが、そこまです
るべきなのかという意見もありま
した。施設で最初の感染者となっ

まったら、という恐怖感が付き纏い、
ピリピリした空気があります。また、
感染症対策について施設内で定期的
に委員会を開いています。

—鈴鹿グリーンホームでは、最近
クラスターが発生してしまつたとの
ことですが、現在対応されているこ
とについて教えていただけますか。

服部 いきさつですが、ショートス
テイで1月8日の朝（発生は7日の
夜）に利用者の感染が確認され、デ
イサービスで、1月13日に利用者の
感染が確認されました。両者に因果
関係はなく、同時期に感染者が発
生しました。感染症対策はもろろん
実施していましたが、一度ウイルスの
侵入を許してしまうと、マスクを正
しく装着できない利用者がいらっ
しやることや、利用者がワンフロア
で自由に行動できるため密になりや
すい状況が感染拡大につながって
しまったのではないかと考えていま
す。保健所からはクラスター発生後
の標準的な指導をしていただいてお
り、書類の提出などの指示が直前に
来ることもありましたが、高齢者は重
症化しやすいため感染拡大を一刻も
早く防ぐという観点から積極的に協
力しています。事業所としての課題
は、デイサービスは50名程度が通所
していますので、いかにワンフロア
で単位を小規模化するかということ

が挙げられます。また、送迎も行っているため、どのようにダウンサイズするか検討しています。

— 職員の様子や、他施設との関係についても教えていただけますか。

服部 職員からは、自分は濃厚接触者になるのかと質問がありました。また、現在は消毒作業、物資の調達、ご家族への連絡、事務処理などの対応に追われている状況です。事業所は休止状態にしており、パートタイマーの勤務時間を短縮せざるを得ず、助成金の活用等での対応を検討しているところです。様々な関係団体の窓口や、各施設との調整・連絡が必要となりますが、それによって助かっているところもあり、こうした非常時の連携は大切だと感じました。

— 利用者（園児）のストレス解消についてなにか工夫されていることはありますか。

藤谷 運動会や発表会といった行事はすべて中止しました。運動会の代わりに、園内で子どもたちと職員のみで「運動会ごっこ」のようなかたちで行いました。園児や保護者にとつて、この年齢だけとなる行事も中止したため、理解を得られるだけではなく苦情もありません。他の

園で行事を実施したところは、その様子を録画し、DVDにして保護者へ配るなどの対応をしたということも聞いています。

乳児であってもストレスはたまりません。そのため、誰もいないところに散歩に連れて行くなど、いかにストレスを解消させるか、ため込ませないかを考え、日々の保育を実践しています。

服部 例年よりも小規模化し、ユニットごとに誕生日会や季節の行事を開催しました。また、家族から利用者へプレゼントやケーキが届くなど、会えないからこそ深まった絆もありました。イベントの規模と、利用者のご家族の距離感を今後も大切にしたいと考えています。

永井 外出行事は自粛し、室内でできるような行事に切り替えました。利用者のなかには毎年決まった行事を楽しみにされている方もいらっしゃるのですが、中止となったことで感じるストレスを解消するための工夫が必要でした。当施設では、遠足をやめた代わりに室内で映画の上映や、ゲーム大会、お菓子作りなどを各部屋で実施し、利用者を楽しんでいたというように調整しました。

— ご家族や職員の方へのフォローなどはどうされていますか。

藤谷 保護者には送り迎えの際にご家族の状況把握も兼ねて、世間話を聞くようにしており、保護者のいわゆる「ガス抜き」の一助となるよう配慮しています。職員に対しては、これまでは食事に連れて行くなどをしていきましたが今はできないため、お菓子などの手土産を渡したり、愚痴を聞いたりするなどしてストレスがたまらないようにしています。

服部 職員に対しては、理事長が雑談を含めた面談を実施しており、それがストレスの緩和につながっているのではないかと思います。また、ご家族に対しては、オンラインでの面会で利用者本人の様子を確認できることで安心していただいています。

永井 これと違って特別なことはしていませんが、職員は感染症対策に気を配り続ける必要があります。これまでは違ったストレスの負荷が掛かることが多いため、職員間のコミュニケーションを大切にしています。また、施設における感染症対策に必要なマスクやアルコール消毒、フェイスガードなどが不足しないよう気を付けています。ご家族については、自粛期間中に利用者が在宅で過ごされていたことよって生じた介護疲れがみられましたので、施設運営の継続により身体的、精神的負担の軽減につなげたいと考えていますし、

安心して通所していただけるような環境を整えていきたいです。



— コロナ禍であっても、変わらずに大事にしたことなどはありますか？

藤谷 当園では、新型コロナウイルスの発生に関わらず消毒や手洗いやなどの感染症対策を徹底していますので、今後も継続してまいります。

服部 福祉の大切な部分である、本人の思いやコミュニケーションを絶やさずに増やしていきたいです。また、インターネットなどを利用し情報の発信を増やしていきます。

永井 コロナ禍であってもなくとも利用者へ安心して通所していただき、楽しんでいただきたというところが大切だと考え、また、感染症にナーバスになりすぎず、雰囲気づくりを大切にしながら運営しています。

— 他種別の施設の方に聞いてみたいことはありますか？

服部 施設の運営にあたっては、収益があり、職員の生活があります。助成金があつて補填できる部分はあると思いますが、この状況が続くとサービスの質を保つことが難しくなってくると思います。その点の状況について教えていただきたいです。



藤谷 当園は四日市市からの委託費で運営を行っているため、休園しながら以上、運営費が確保できています。しかし、自粛期間中はパートタイマーの出勤日数が減少し給料が減つてしまったという現状があります。

永井 第1波の時期の1か月半くらいは、新型コロナウイルス感染症の状況が分からなかったこともあり、通所の自粛をお願いしていました。また、人が密集することを避けるために、通所時間を利用者によって午前と午後で分けました。半日の作業になるので、半日分の工賃しか払えないところですが、以前から用意していた緊急時の積立金を一部取り崩し、一日勤務した場合の全額とはいかないまでも工賃補助として上乘せを行いました。

藤谷 利用者の検温時に体温が37・5℃以上ある場合の対応について教えてください。

永井 体温での判断について、統一させることは難しいです。ただ、微熱として37℃を超えてくると要注意とし、その他のコロナ感染者に特徴とされる倦怠感等の症状で判断することとしています。その方の平熱プラス1℃高くなっているようだと、警戒します。利用者個人の平均体温を把握することで対応しています。

服部 インフルエンザやノロウイルス、コロナのすべてに対応できるマニュアルでは、利用者の体温の基準を37℃としています。ただ、コロナは無症状の感染者もいるため体温のみの判断が難しいと感じます。

永井 当施設では利用者や家族で感染症対策の意識にばらつきがあったのですが、対応に困ったことはなかったでしょうか。

藤谷 やはり、保護者によって感覚の違いは見受けられます。各家庭における都合もあります。たとえば、子どもに熱があつても登園させる方はいらっしゃいますし、休ませる保護者もいらっしゃいます。また、子どもの体温は変化しやすく、発熱後すぐに保護者へ連絡してしまうと仕事に影響を与えてしまうこともあり、子どもの様子をよく確認し、保護者へ連絡するタイミングも調整しています。また、当園では外国人の利用者が多いため、反応が異なる場所もあります。

——最後に、WEB対談の感想を教えてください。

服部 とても参考になりましたし、貴重な時間になりました。福祉に携わる者が、種別を超えて情報交換する機会がもっとあればいいと思います。また、ストレスが軽減できるよう、意見交換会などを今後も行うことができると思います。

藤谷 保育園にはいろんな方がいらっしゃるのですが、何も変わらず、負担なく職員も利用者も毎日の生活をしていってほしいと思います。感染しないように気を付けながら毎日を過ごしていってほしいです。種別によって、それぞれの苦労があります。はやくコロナが収束することを祈ります。

永井 今回、このような場で貴重な話を聞かせていただいて勉強になりました。実際にクラスター等が起ったらどうしようという不安のなか、また、人とかかわりで業務を止めることができないなか、収束を願いながら息が切れないように支援を行っていただければと思います。



福祉の現場では、利用者や職員の生活を守るために様々な工夫がなされていますが、今回の取材では、感染症対策だけでなく利用者や、ご家族、職員の心のケアも求められることがわかりました。

予断を許さない状況が続きますが、本特集を通して各分野の社会福祉施設の現状や、感染症対策に伴う苦労や努力に共感を覚えていただき、今後の事業運営の参考に役立てていただけたら幸いです。

また、一日でも早く新型コロナウイルス感染症が終息することを願っています。

Hello!

新ウェルビーイングみえプラン

連載

第7回

このページでは、昨年3月に完成した新ウェルビーイングみえプランの各推進項目を紹介します。

基本目標 ③ 「災害時に備えた支援活動の充実」

推進項目 ① 「災害時に備えたネットワークの構築・基盤強化」

多大な被害を引き起こす災害が毎年のように発生し、さらに、南海トラフ地震も高い確率で発生が見込まれている状況の中、災害への備え、柔軟で実効性の高い支援体制の構築が喫緊の課題となっています。災害時に多様な関係者の力を結集できるよう、平時から関係者間のネットワークを構築し強化すること、市町村協や福祉施設・事業所等の機能を継続し、さらに災害時要援護者に対して必要な役割を果たすことが求められます。これらのことを受けて、本会では以下の取組を行っていきます。

実施計画概要

三重県災害派遣福祉チーム (DWAT) の体制整備

- 災害時に災害時要援護者へ適切な支援活動を行う体制を整備するため、社会福祉関係団体や社会福祉法人等へ三重県 DWAT の組成にかかる協力依頼を行うとともに、研修や訓練を実施します。

三重県広域受援計画 (第5章) の体制整備

- 社会福祉関係団体や社会福祉法人等に円滑な受援活動の体制整備にかかる協力依頼を行います。
- 介護職員等の応援派遣の調整を円滑に行う体制を整備するため、調整本部の設置に協力する登録者の確保にむけた研修を実施するとともに、登録者を対象にした研修や訓練を行います。

災害時のボランティア活動支援

- 「みえ災害ボランティア支援センター」の幹事団体として、県内で発生した大規模災害時に災害ボランティアセンターの支援にあたります。また、県外で発生した大規模災害時には、全社協の調整等に基づき、被災地でのボランティア活動を支援します。

全社協、東海北陸ブロック県社協および指定都市社協や県内市町社協と連携・協力

- 全社協、東海北陸ブロック県社協および指定都市社協や県内市町社協と連携、協力して、平時から会議等で意見交換し、災害時における支援活動に取り組む体制を整えます。

「災害福祉支援センター (仮称)」の設置

- 平時から発災時に備えた体制整備も含めて、全社協の取組状況に併せて「災害福祉支援センター (仮称)」の設置を検討します。

市町村協、福祉施設・事業所における災害対応強化の支援

- 災害時に市町村協、福祉施設・事業所に求められる役割を果たすことができるよう、事業継続計画の策定や平常時からの備えの検討などの支援やネットワーク構築支援に取り組みます。
- 市町村協が適切に災害ボランティアセンターの設置運営ができるよう、人材育成やマニュアル作成の支援などに取り組みます。
- 県が推進する福祉避難所運営マニュアルが県内の福祉施設・事業所で策定されるよう、県と協力して取り組みます。

活動方針の視点でとらえる方向性

活動方針	方向性
① 共に考え、高め合う	行政や社会福祉団体、市町村協、全社協、東海北陸ブロック県・指定都市社協等と連携・協力して支援活動に取り組みます。
② 実行し、創る	平時より、研修、訓練等を行い、災害時に適切かつ円滑に支援活動が実施できるように取り組みます。
③ 揺るがず、でも柔軟に	被災地の状況等に十分配慮して、災害時要援護者に寄り添った支援活動を行います。

※活動方針については、2020年4・5月号7頁にて紹介しています。

information

令和3年度三重ボランティア基金助成の助成先を募集します

対象団体 現在、県内の各市町社会福祉協議会にボランティア団体として登録され、福祉の向上を目的とした活動が計画的・継続的に行われ、地域の高齢者や障がい者・児童等に対する支援を行っている団体を対象とします。

- 募集事業**
- ① ボランティア団体基盤強化助成
 - ② ボランティアセンター基盤強化助成
 - ③ 災害ボランティアコーディネーター養成事業助成
 - ④ ボランティア活動資金助成
 - ⑤ 災害時ボランティア活動推進基盤整備助成

申込方法 申請書は、市町社会福祉協議会または事務局に設置してあります。

また、HPからもダウンロードできます。

<http://www.miewel-1.com/vkikin/>

提出期限 一次集約分 令和3年4月16日(金)

問合せ先 津市桜橋2丁目131番地
公益財団法人 三重ボランティア基金事務局
TEL 059-227-9994



三重ボランティア基金とは
三重ボランティア基金は、昭和57年6月に福祉まちづくりを創造することを目的として設立した公益財団法人です。

生命保険協会三重県協会様から高齢者支援団体2団体にご寄付(活動助成)をいただきました

生命保険協会三重県協会は、高齢者を対象にした健康管理・増進、自立支援、生きがいづくり等の活動に取り組んでいる民間非営利の団体、ボランティアグループ、特定非営利活動法人等に寄付(助成)をする取組みをされています。

三重県社会福祉協議会を通じて県内の高齢者支援団体である「うた声エール(鈴鹿市)」・「大正ロマン一座(松阪市)」の2団体に対して10万円ずつご寄付(活動助成)いただきました。誠にありがとうございました。

団体紹介

- うた声エール：小地域における高齢者を対象にしたサロン活動団体です。ボランティア、民生児童委員、自治会関係者が中心となり運営し、65歳以上の方を対象に月1回開催されています。
- 大正ロマン一座：「高齢者による、高齢者のための元気づくり集団」として、高齢者施設等で、歌、踊り、劇を通した健康増進、認知症予防の活動を展開し、地域の元気づくりに取り組まれています。



右から順に
生命保険協会三重県協会 会長 清水 経祐 様
大正ロマン一座 座長 (代理 松阪市社協 山口) 様 (目録受領)
うた声エール 代表 伊藤 としみ 様 (目録受領) 他2名
三重県社会福祉協議会 会長 井村 正勝

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

令和3年度

ボランティア活動保険

全国200万人
加入!!

保険金額・年間保険料(1名あたり)

保険金の種類	プラン	
	基本プラン	天災・地震補償プラン
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)
	入院保険金日額	6,500円
	手術 入院中の手術	65,000円
	保険金 外来の手術	32,500円
	通院保険金日額	4,000円
賠償責任	地震・噴火・津波による死傷	× ○
	賠償責任保険金(対人・対物共通)	5億円(限度額)
年間保険料		350円 500円

団体割引20%適用済/過去の損害率による割増引適用

<基本プランに加入される方へ>

基本プランでは、地震・噴火・津波が起因する死傷は補償されません。

◆災害ボランティア活動の参加は、「天災・地震補償プラン」への加入をおすすめします。

※被災地でのボランティア活動では、予測できない様々な事態が想定されます。二次被害への備えとしても、あらかじめ「天災・地震補償プラン」に加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

<https://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険 検索

商品パンフレットは
コチラ
(ふくしの保険ホームページ)



ボランティア行幸用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事 保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
受付時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。



ありがとうメッセージ

心も一緒に届いています

社会福祉法人 木曾岬町社会福祉協議会 平成 30 年度一般配分

つながりを深めるための外国籍住民の交流

みなさまの温かいご支援のおかげで、この交流会も 4 年目を迎えることができました。前回参加した方からの口コミによって参加者も増えてきていて、楽しい時間を過ごすことができます。交流会では、「外国籍住民が持つ日常生活の困りごと」「日本人住民が抱える外国籍の方との関わり方」などお互いの悩みを聞き取り、住民同士で対応している姿が見られ、人と人とのつながりを実感できるイベントとなっています。



社会福祉法人 紀宝町社会福祉協議会 令和元年度歳末たすけあい配分

高齢者世帯への火災報知器の設置

みなさんの募金のおかげで、火災報知器を家に取り付けることができました。冬場の乾燥する季節、ストーブ、こたつ等の暖房器具が欠かせない季節です。火災報知器をつけていただきましたが、火事を起こさない様に気を引き締めて冬を乗り越えたいと思います。



発行人／井村 正勝

編集人／松本 利治・広報委員会

発行所／社会福祉法人 三重県社会福祉協議会

〒514-8552 三重県津市桜橋2丁目 131

TEL : 059-227-5145 FAX : 059-227-6618

URL : <https://www.miewel-1.com/> E-mail : info@miewel.or.jp

編集協力／株式会社アイリック

2021年3月号(通巻359号) 令和3年3月発行

「福みえ」は三重県社協のホームページでもご覧になれます。また、広報に関するご意見・ご感想は、E-mailにて受け付けております。